

養分の過剰蓄積を防ぐ堆肥の使い方をしましょう

【1 成果概要】

基準量の堆肥の連用により、収量は増加傾向、土壌の化学性は低下しません。

基準量以上の堆肥の連用は、特に畑において養分（リン酸、カリ）が過剰に蓄積します。

（堆肥の効果と問題）

- ・ 堆肥の施用は養分の供給以外にも、土壌の化学性・物理性・生物性を改善するはたらきがあります。
- ・ ただし、多量の堆肥を施用し続けた場合、土壌中の養分バランスが崩れ、地下水汚染の原因となる可能性もあります。

（堆肥の施用量はどのくらいがベスト？）

基準量である水稲 1 t/10a, 畑 2 t/10a の堆肥の施用は収量を高め、養分が過剰に蓄積しません。

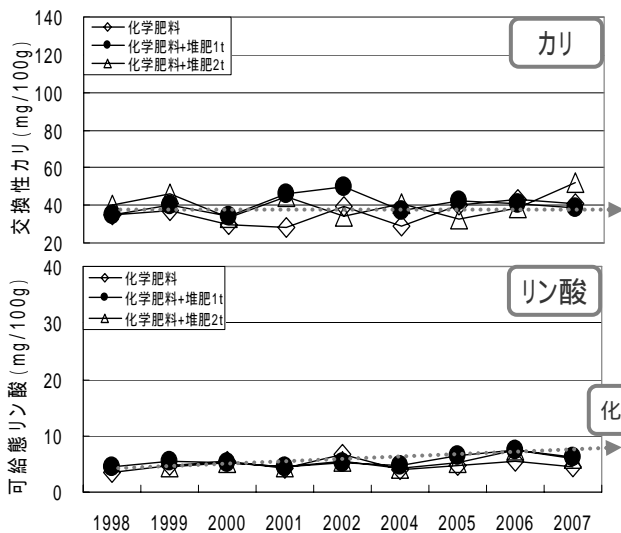


図1 水田におけるリン酸・カリの推移

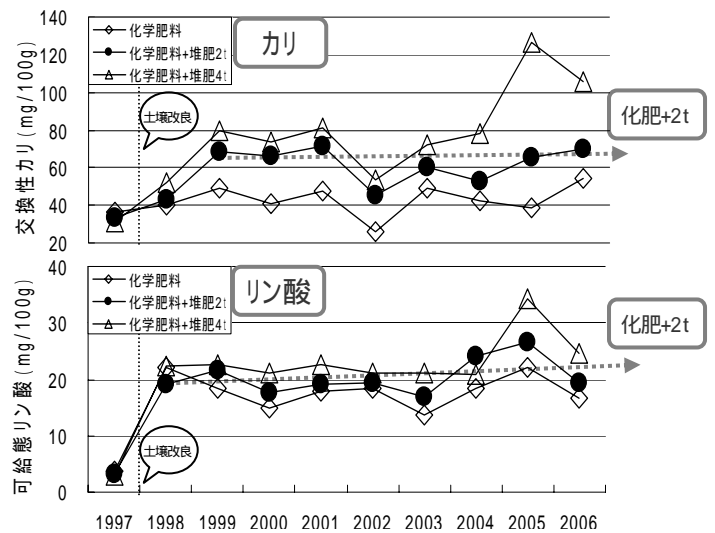


図2 露地野菜畑におけるリン酸・カリの推移

（堆肥や土壌の蓄積養分を有効利用しよう！）

- ・ これまでは、土づくりや窒素の供給源として堆肥を利用するが多かったのではないのでしょうか？ 堆肥にはリン酸やカリなどの養分も含まれています。これらの養分も考慮して利用しましょう。
- ・ 土壌に養分が蓄積している圃場が増えています。これらの養分を有効に利用し、堆肥の施用と合わせて肥料の高騰を乗り越えましょう！ そのためには、**土壌診断**を行って圃場の養分状態を把握することが大切です。

【2 留意事項】

- 1 この試験は農業研究センターの黒ボク土で10年間行われたものです。
- 2 土壌の種類などによっては基準量の連用でも養分が過剰に蓄積する可能性がありますので、定期的に土壌診断を行いましょう。

【3 効果】

適正な土壌管理の指導、肥料費低減対策の資となります。

【4 適応対象】

農業普及員等の指導者等